

提案名	「日本の杉でつくる」家 「北海道の木でつくる」家	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	住友林業株式会社	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

1. 【日本の木の利用を推進】
2. 【暮らしへの安心感と快適性】
3. 【建物を永く家として使うためのきっかけづくり】
4. 【建物価値が下がるのを抑える】
5. 【将来への存在価値を見いだす】

■提案内容

1. 【日本の木の利用を推進】

- 国内森林面積の最大を占める資源循環型社会に適した国産資源「杉」を中心にその利用を推進する
- ・材料強度に合わせた設計手法により、柱、梁、棟木など～合板、耐力面材に至るまで国産の杉を使用
 - ・設計手法を山林へフィードバックして輸入材よりも割高の国産杉による集成材の製造価格を極力抑えた
 - ・国産の「なら」「けやき」「くり」「すぎ」「ひのき」を床材として使用する

2. 【暮らしへの安心感と快適性】

- 耐久性、耐震性、温熱快適性、安全性などに優れた家づくり
- ・涼温房「風の設計」「太陽の設計」「緑の設計」により冷暖房に頼り切らない快適性を提案
 - ・耐震等級3、繰り返しの地震に強いエネルギー吸収耐力壁、オリジナルモルタル外壁による+αの耐震性
 - ・L S仕様の屋根・外壁・防水によりメンテナンスの回数と費用を低減

3. 【建物を永く家として使うためのきっかけづくり】

- 建築中からご入居後まで「愛着」「価値」「思い出」を育む機会を提供、セルフメンテナンスを支援
- ・ウッドデッキへの塗装と床合板への釘打ちなど、建築工事への施主参加による維持管理及び家づくり体験
 - ・お手入れ方法の小冊子、毎年開催のお手入れ相談会、専用WEBサイト、情報交換や家事提案のイベント



杉の内装



緑の設計



お手入れ冊子

緑の羅針盤（旧版）

4. 【建物価値が下がるのを抑える】

住まいの価値を高める庭づくり、メンテナンス費用や手間を減らすなど維持管理をサポート

- ・ 自生種を推奨する「緑の羅針盤Ⅱ」を用いて生態系に悪影響を与える外来の侵略樹種を排除した庭づくり
- ・ 基礎コンクリート強度増強、ヘッダー方式の給水配管、オリジナル防水シートによる長期対漏水性能
- ・ 10年後以降5年毎の防蟻メンテナンスを従来の約7割程度に安く安全に簡単に行える新防蟻システム
- ・ ロングサポートシステム（60年定期点検）、25年目までの無償定期点検、365日24時間電話相談

5 【将来への存在価値を見いだす】

ハードからソフトまで将来のライフスタイルの変化に配慮

- ・ 準耐力壁を余力として扱い、偏心率を15%以下に抑え、リフォーム時の荷重増加を見込んだ構造計算
- ・ 新築時の図面や写真、竣工図からご入居後の点検情報に至るまでをITデータベースにより全国管理
- ・ 建設住宅性能評価書の取得、最長30年まで延長可能な建物保証書、譲渡時の建物保証の第三者継承

6. 【長期優良住宅の普及啓蒙】

- ・ 営業活動の他、住宅の長寿命化に関する社内及び施工店勉強会、建築現場の一般公開、WEB広報、広告等

■提案者からのコメント

技術を結集した性能的に長持ちする建物。それが家として永く存続するかどうかは、オーナーに委ねられる。「家を長持ちさせたい」という気持ちがオーナーに生まれ育つのは、建築中からご入居後の暮らしまで、様々なことが深く関わるだろう。例えば、自らがつくる記憶、手を動かすことの楽しさ、ものができていく過程を見る、こうした建築工事への参加は、家への愛着を高め、家を残す原動力につながる様に思う。家に自らが手をかけることで家に対する愛着が湧くのは、ご入居後も同様であろう。ただ、何かの行動を起こすとしても、今の状態や、何をどうして良いのか判らなければ、次の行動には移れない。そこに住宅供給企業や住生活関連企業がサポートできる部分がある様に思う。

また、家で催す誕生会や食事会、家庭菜園、バーベキューなど、こうして家族が余暇を家で過ごし、数々の思い出が重なっていくことで、家は歴史を刻む愛着のあるものになるだろう。時には、大掃除、草むしり、日曜大工といった家族で行うメンテナンス作業もあり、家をきれいにすると共に、思い出と愛着をつくる機会でもある。ところが近頃は、余暇を家で過ごすことも減り、オーナー自身でメンテナンスできる部分も減っている様に思われている様だ。実際には沢山あるのだから、それに気づいてもらう働きとして住宅供給企業や住生活関連企業が住宅の長寿命化、つまりは豊かな暮らしをサポートできる部分がある様に思う。

そして、家を建てるという機会は、木について知る、社会の未来について考える、絶好の機会と言える。日本の森林の4割以上は人工林であり、その最大面積を占める樹種は杉である。杉は、建築用材、橋梁、造船、桶から箸に至るまで、あらゆるものに使われながら日本の文化を築いてきた。身近にあり、軽く、温かくて、口に入れるものにまで使える素材である。特に人工林は、人が生み出すことのできる貴重な資源であり、循環型社会において杉は国産資源の最たるものである。人工林は山の畑であり、人が手をかけなければ適正に育たない。勿論人が人工林を手掛けるのは、木材供給だけのためではない。治水、土壌保全、生き物の命を育み、酸素を生み出し、二酸化炭素を炭水化物として固定する、人の暮らしに欠かせない、森林国日本に欠かせない営みである。